

# 富士宮の歴史

Folklore  
民俗編



静岡県富士宮市

# 富士宮の歴史

Folklore

民俗編

**【表紙写真】**

- ・ラッカセイ収穫（杉田）
- ・朝霧高原茅場の火入れ（根原）
- ・火伏念仏（内野）
- ・富士宮まつりでの競り合いの様子

## ご挨拶



このたび、『富士宮の歴史 民俗編』を刊行できましたこと、大変うれしく思います。本書には、私たちのまち富士宮に暮らす人々が、日々の生活や年中行事、祭りや習わしを通して育んできた豊かな暮らしの姿が描かれています。

令和二年から新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域の行事や祭礼の多くが中止や縮小を余儀なくされました。人と人とのつながりが薄れがちな時期を経験した今だからこそ、昔から受け継がれてきた地域の絆や助け合いの精神にあらためて目を向けることが大切だと感じています。本書が、富士宮の暮らしの知恵や文化の奥深さを知るきっかけとなり、郷土への愛着と誇りを育む手助けとなれば幸いです。未来を担う子どもたちにも、読み継がれていくことを願っています。

結びに、本書の刊行に際して調査、執筆、編集にご尽力いただきました市史編さん委員および執筆員の皆様をはじめ、資料の提供や調査にご協力をくださいました皆様方に心から感謝申し上げます。

令和八年三月

富士宮市長 須藤 秀忠

## はじめに

富士宮市には、今も豊かな民俗文化が残されている。

「民俗」とは、習わしやしきたり、言い伝えのことであり、人々が生きるために伝えてきた暮らしの知識や知恵である。現在まで世代を超えて伝えられ、変遷してきた日本人の生活文化のことである。そして、この『富士宮の歴史』の中に位置づけられた「民俗編」とは、歴史上に名を残した為政者や宗教者、貴族や武士など特別な身分の人々の記録ではなく、無名のごくありふれた市民の歴史の記録をつづったものである。

民俗は日常生活の中で当たり前のように繰り返されてきたものであり、それをあえて文字として残す必要がなかったものでもある。それでも、江戸時代には大宮の町役人や造り酒屋の当主たちが、日記に自らの暮らしぶりや行事、祭事の記録を残していた。さらに、現在に至るまで地誌や区誌など多くの出版物が刊行され、それらは「過去の民俗」を知る上で貴重な資料となっている。

民俗の調査方法は聞き書きといい、さまざまにインタビューして文字に起こすことを基本としている。聞き書き調査では相手の言葉や言い回しを活かすため、その地域に特徴的な言葉に細心の注意を払い、それをカタカナ表記することもある。民俗学ではこれを民俗語彙と呼んでおり、方言に近い言葉

---

もある。たとえば、「どんど焼きのサンボンヤリ（三本槍）」は市内各地で聞かれる通称だが、団子を挿す三又の木の枝をサンボンヤリというのは誰もが理解できる独特の言い回しである。

市史編さん事業がスタートしてまもなく、令和二年（二〇二〇）、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こった。これにより、民俗の聞き書き調査は中断を余儀なくされ、さらに祭りや行事もほとんどが中止または縮小された。令和七年現在、すべての行事がコロナ禍以前のように完全復活したわけではない。富士宮の民俗を明らかにしていくためには、コロナ禍を経た後の民俗の変容も視野にいれなければならない。これまでも自然災害や疫病・流行病の蔓延が、民俗に変化・変容をもたらしてきたからである。

富士宮市は豊かな自然と文化に恵まれている。多くの農産物や畜産物があり、食文化も豊かである。民俗調査では多様な民俗の姿にたびたび驚かされ、そして多くの方々にお世話になり、時にはご家庭の味を堪能させていただいた。何度もお邪魔したにも関わらず快く対応していただき、執筆者一同言葉には表せないほど感謝申し上げます。そして、『富士宮の歴史 民俗編』が、今を生きる民俗の姿を将来に伝える一書になればと心より願っております。

市史編さん委員 松田 香代子

---

ご挨拶  
はじめに  
目次  
例言

総説

第一章 富士宮の民俗をとりまく環境…………… 2  
第二章 富士宮の民俗の特徴…………… 8

第一編 暮らしのなかの民俗

第一章 生産と生業…………… 12

第一節 富士宮の自然環境と生産・生業…………… 12  
第二節 朝霧高原の酪農…………… 14  
第三節 杉田の畑作…………… 18  
第四節 内房の山仕事…………… 24  
第五節 下原の稲作…………… 28  
第六節 養鱒業…………… 38

第二章 社会環境と民俗…………… 42

第一節 自治組織…………… 42  
第二節 共有財産と共同作業…………… 47  
第三節 親族と同族…………… 52  
第四節 青年団…………… 54  
第五節 講…………… 58

第三章 民具からみる暮らし…………… 60

第一節 古写真と着物類からみる衣生活…………… 60  
第二節 ケとハレの食―日常の食から行事食まで―…………… 64  
第三節 住まいと暮らし―茅葺民家とその機能―…………… 70  
第四節 酒造と酒造用具…………… 74  
第五節 稲作と稲作用具…………… 86

## 第二編 人生の節目と一年の祭り

### 第一章 人の一生と儀礼

第一節 産育	100
第二節 婚姻	104
第三節 葬送の儀礼	108
第四節 墓制	113

### 第二章 祭りと信仰

第一節 寺社と各地の祭り	116
第二節 道祖神とどんど焼き	126
第三節 盆行事と川供養	131
第四節 内野の火伏念仏	136

### 第三章 口承文芸

第一節 昔話と伝説	144
第二節 失われゆく方言	156
第三節 富士宮の歌	160

## 第三編 富士山本宮浅間大社と大宮のまち

### 第一章 大宮のまちの成立と発展

第一節 商いのまちとしての大宮	168
第二節 富士登山の拠点としての大宮のまち	170
第三節 明治時代以降の産業の発展	172
第四節 新たな登山道の開発と観光のまち	174
第五節 地図からみる大宮のまち	175
第六節 大宮町大火と復興後のまち	179

### 第二章 富士山本宮浅間大社の祭礼

第一節 浅間大神からコノハナサクヤヒメへ	180
第二節 伝統ある祭礼と現在の祭典	182
第三節 富士山本宮浅間大社の流鏝馬	186
第四節 御田植祭の変遷	192

### 第三章 富士宮まつり

第一節 大宮のまちと富士宮まつり	194
第二節 日程と祭典組織	200
第三節 富士宮囃子と大宮木遣り	206
第四節 山車と屋台	212

## 参考文献

## 関係者一覧

## 索引

247
240
234

## 例 言

- ・本書は令和元年度より開始した市史編さん事業の成果として刊行するものである。
- ・本書の総括は市史編さん委員 松田香代子（愛知大学非常勤講師）が担当し、執筆分担は巻末に記した。
- ・本書における年の表記は原則として和暦とし、節の初出の和暦には西暦を併記した。

例…令和七年（二〇二五）

- ・本書における地名は現行地名または行政区名で表記し、町村合併前の地名には現行地名をカッコ内に記した。
- ・調査協力者の氏名を記述する場合は、カッコ内に生年を示した。
- ・民俗語彙の表記は、伝承者の表現をカタカナで示し、必要に応じてカッコ内に漢字を用いて標準的な語句を示した。
- ・本文中の写真・図・表には、「写真1-1」のように章ごとに通し番号を付した。撮影年や提供者、転載・引用の典拠などはキャプション内に記載した。ただし、執筆者・調査補助員が提供したものや、富士宮市所蔵のものについては省略した。